

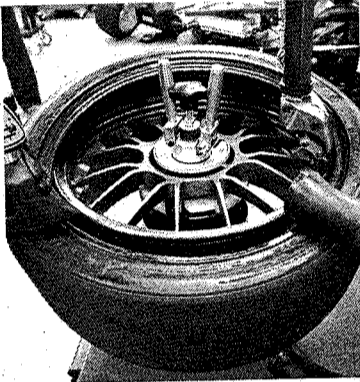
整備機器

新商品

東洋精器工業(株)

乗用車用タイヤチェンジャー 「PIT M897」

レバーレスのエントリー機



サポートユニットで完全レバーレス作業を実現した

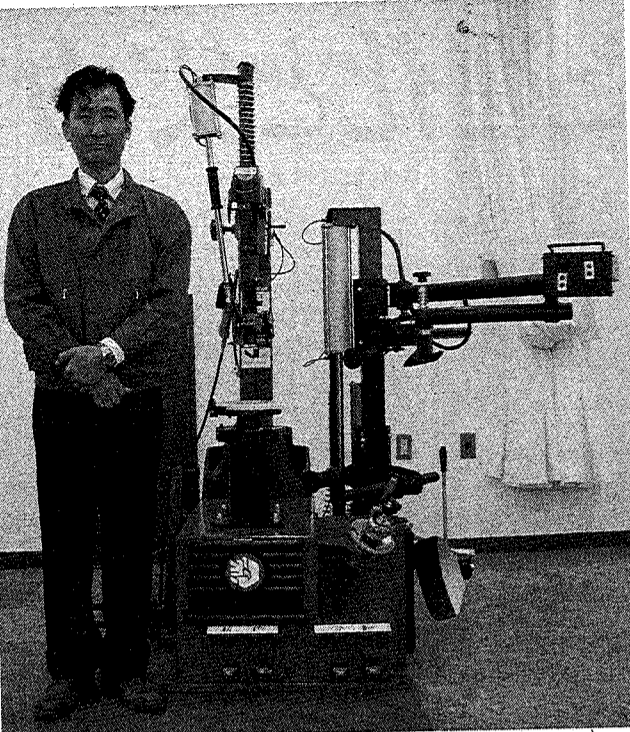
使いやすい、しかも故障しにくいというメリットがあるとして採用に至った。

「PIT M897」には、サポートユニットを本体右側に集約的に配置した。これはPIT APT HLE IIと同じ設計思想、

すなわちレバーレス作業を円滑に、素早く、確実にするため。そしてサポートユニットを本体右側に集中させることで左側スペースをコンパクト化し、作業者の動線を極力少なくすることで、作業の一層の省力化・軽労化を実現するための。

森本さんは機器本体のペダルとサポートユニットのボタンを操作し、プレスバーなどの位置を確認しながらラックフラットタイヤの脱着作業を進めていく。

「わたし自身もタイヤチェンジャーの専属担当ではないので、専属の担当者よりも脱着作業が上手ではありません。ですが、そんなわたしでも『PIT M897』を使うことで遜色なく、力もほとんど使わず楽に、レバーレスでタイヤの組み込みや取り外し作業ができます。」この言葉に、新製品のバリュー(価値)が表されている。



タイヤ整備作業の現場で求められる「省力化・軽労化」。東洋精器工業(株)兵庫県宝塚市、阿瀬正浩社長)では、そのテーマに取り組みべく、10年間を見据えた製品のラインアップ構想に着手した。

現場で「省力化・軽労化」が特に強く求められているのがタイヤの脱着作業時だろう。そこで同社では、タイヤチェンジャーのラインアップ充実を図ると、このエントリーモデルは底の部分にあたる

面積がもっとも広い。つまりユーザー数が一番多い。その上にミドルクラスがあり、さらにその上にハイエンドモデルがある。

製品ラインアップ構想に基づき同社は今年、第2弾としてエントリータイプのレバーレス専用機のエントリーモデル、第3弾にミドルクラス、第4弾にはハイエンドモデルにそれぞれ新製品を投入する計画で順次その準備を進めている。タイヤチェンジャー「PIT」シリーズの拡大により、タイヤ脱着作業に携わる、あらゆる業種のニーズにきめ細かく対応を図る考えだ。

◆ エントリータイプの乗用車用センタールック式レバーレスタイヤチェンジャー新製品が「PIT M897」。この春、本格販売を開始する予定。販売企画部主任の森本祐二さん(写真)が新製品の解説と実演デモを担当してくれた。

森本さんは「新製品は、従来モデルの改良版という考え方はなく、新機種として一から企画しました」と、「完全なレバーレス作業を実現する、エントリータイプのタイヤチェンジャーです。」このように紹介する。

製品のカラーリングは「PIT APT HLE II E IIと同様に、漆黒のマットブラックを採用。従来モデルとは一線を画し、高級感を表現する。

レバーレス作業への対応を図るため「PIT M897」ではセンタールック方式を採用した。ただ森本さんは「これまで従来のヨーロッパタイプのチェンジャーを使い慣れたお客様にも違和感なくお使いいただける

(横野 正義)